

中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

法人名等	目標の内容・実績				
【法人名】 公益財団法人 さいたま緑のトラスト協会	目標	会員数(個人・法人)	ボランティア登録者数	自然観察会参加者数	寄付金・会費収入額
		【令和元年度目標】 1,485人	【令和元年度目標】 630人	【令和元年度目標】 400人	【令和元年度目標】 510万円
		【令和2年度目標】 1,518人	【令和2年度目標】 640人	【令和2年度目標】 410人	【令和2年度目標】 540万円
【中期経営計画の期間】 令和元年度～3年度	各年度の実績	【令和元年度実績】 1,410人	【令和元年度実績】 640人	【令和元年度実績】 343人	【令和元年度実績】 472万円
		【令和2年度実績】 1,411人	【令和2年度実績】 650人	【令和2年度実績】 57人 (※13回の計画のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため9回が中止)	【令和2年度実績】 465万円
		【令和3年度実績】 1,457人	【令和3年度実績】 665人	【令和3年度実績】 134人 (※13回の計画のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため7回が中止)	【令和3年度実績】 488万円
	法人による自己評価	<p>・ 当協会の公益目的事業であるトラスト運動の普及啓発事業、トラスト保全地の保全管理・運営事業及びトラスト基金の募金・広報活動事業については、いずれも当協会会員であるボランティアスタッフにより事業が展開されているため、会員の確保は必要不可欠である。</p> <p>・ また、会費収入は、当協会の主要な自主財源であり、財源確保の観点からも会員の確保は重要である。</p> <p>・ 令和3年度においては目標を大きく下回ってしまったが、これは、目標設定後の平成30年度末から、会費を2年間滞納した者は退会とみなすという会員規定を、厳格に運用することとしたことも大きく影響している。</p> <p>・ 会員の確保は、当協会の事業や経営に直接影響を及ぼす最重要事項であるため、今後もトラスト保全地の良さを認識いただくための「自然に親しむ会」の開催や地域イベントへの参加、保全管理活動の楽しさを体験いただく「保全体験」の受入れ等を積極的に行うとともに、トラスト保全地近隣の市町を中心とした広報活動の充実等を図ることにより、会員数の増加に努めていきたい。</p> <p>・ 当協会の事業は、ボランティアスタッフにより実施されていることから、ボランティアスタッフの継続的な確保は、当協会の最重要課題となっている。</p> <p>・ このため、各保全地における自然観察会の開催や地元イベントへの参加等において新規勧誘に努めるとともに、入会後は、魅力的な研修会等を実施することにより、ボランティアとしてのスキルアップと、楽しめる活動機会の確保を図っている。</p> <p>・ 令和3年度のボランティア登録者は、目標以上の実績となったが、このうち実働しているボランティアは460人ほどであり、慢性的な人手不足の状態が続いている。</p> <p>・ また、実働しているボランティアスタッフの年齢層は70歳代が中心であり、年々、高齢化が進んでいることも大きな課題となっている。</p> <p>・ 今後は、若者や現役世代にも魅力的なイベント等の開催を検討するとともに、企業や大学等と連携して社員や学生の保全活動体験等を受け入れる取り組みも進め、ボランティアスタッフの充実を図っていきたい。</p> <p>・ なお、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の開催が難しい状況が続いているため、令和2年度に作成したボランティアスタッフ募集に係るチラシを関係機関等へ幅広く持参するなどして、地道な周知活動を行っている。</p> <p>・ 今後も、様々な機会を捉えて、募集の呼び掛けを行ってきたい。</p> <p>・ 当協会では、各トラスト保全地を会場とする自然観察会をトラスト運動への理解促進と会員勧誘の機会ととらえ、重点事業として実施している。</p> <p>・ 令和3年度は13回の「自然に親しむ会」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため6回、天候不良のため1回が中止となり、開催回数は6回にとどまったことから、参加者数は昨年度同様非常に少なく、目標に達することができなかった。</p> <p>・ 自然観察会は、タケノコ掘りやシイタケのコマ打ち等と組み合わせた体験型イベントに人気があるが、いずれも保全地面積や対応するボランティアスタッフの人数に限りがあることから、通常は抽選により参加者を絞らざるを得ない状況にある。</p> <p>・ 今後も、各保全地の特長を活かした魅力的なイベント開催を工夫するとともに、広報にも力を入れ、自然観察会参加者数の増加を図ってきたい。</p> <p>・ なお、平成30年度に実施した協会ホームページのリニューアルによりネット申込みが可能となったことから、若い方を中心に気軽に申し込んでいただけるようになってきている。</p> <p>・ 当協会では収益事業を行っていないため、自主財源は、企業や個人からの寄付金と会員からの会費収入のみとなっている。</p> <p>・ 令和3年度は、会員数の伸び悩みや、新型コロナウイルスの感染拡大により年度末の寄付実績が増えなかったことにより、目標に大きく届かなかった。</p> <p>・ 今後は、トラスト保全地近隣の企業や大学等に的を絞った保全体験活動の受入れや寄付を呼び掛けるなどして、新規会員を獲得し、会費収入の増額を図っていきたい。</p> <p>・ 寄付金については、県が運営する「トラスト基金」や「みどりの基金」と競合してしまうため、当協会への寄付金は集まりづらい状況にあるが、引き続き、ターゲットを絞ったより詳しい呼びかけ等について検討していきたい。</p> <p>・ 令和2年度、川内優輝選手からの寄附金(2018年ボストンマラソン優勝に係るチャリティプログラム)を主な原資として作成した緑のトラスト保全地PR用動画を有効に活用し、新たな寄付金や会員の獲得に繋げていきたい。</p>			